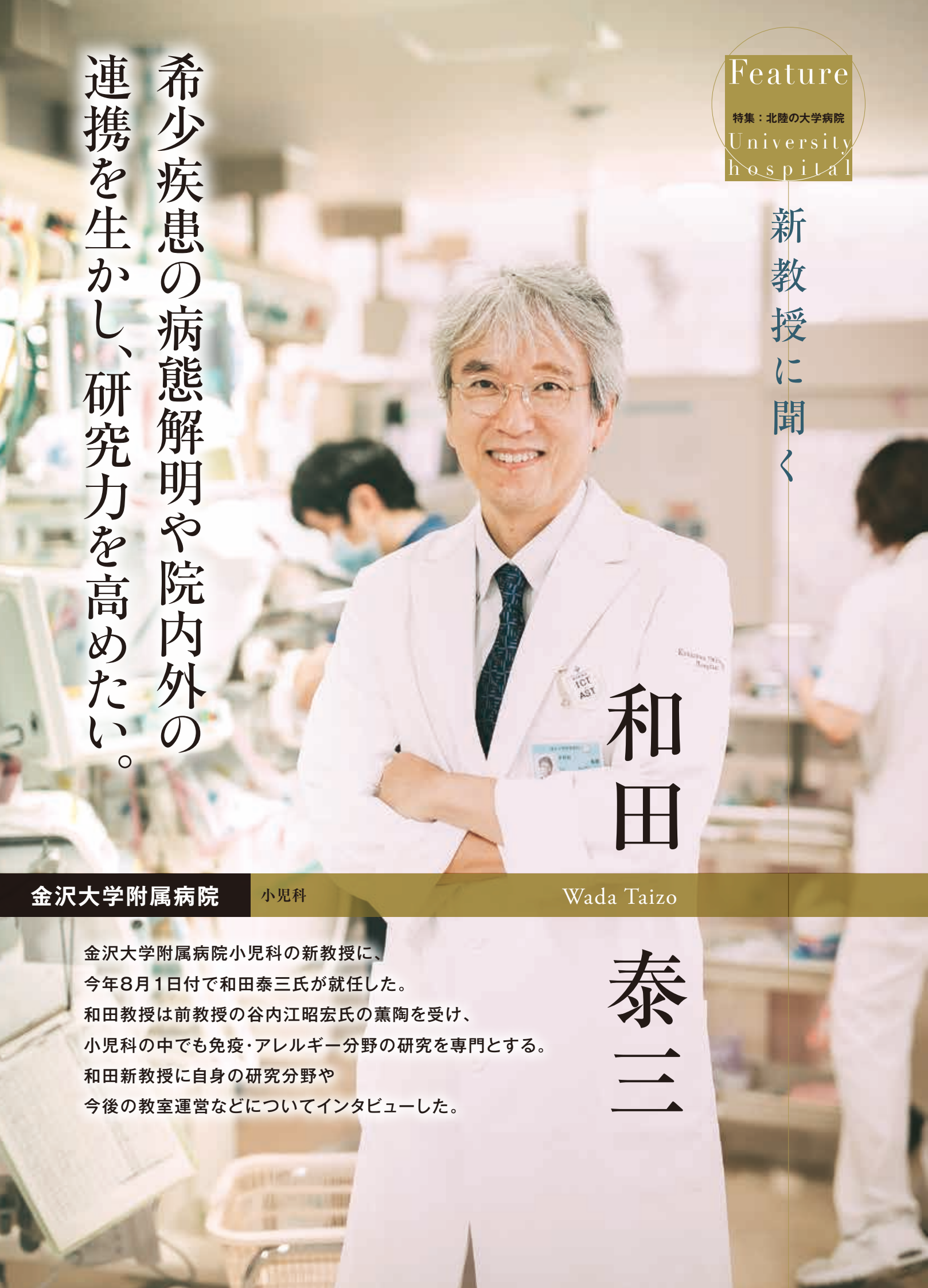

Feature

特集：北陸の大学病院

University hospital

新教授に聞く

# 希少疾患の病態解明や院内外の連携を生かし、研究力を高めたい。

# 和田泰三

Wada Taizo

**金沢大学附属病院** 小児科

金沢大学附属病院小児科の新教授に、
今年8月1日付で和田泰三氏が就任した。
和田教授は前教授の谷内江昭宏氏の薫陶を受け、
小児科の中でも免疫・アレルギー分野の研究を専門とする。
和田新教授に自身の研究分野や
今後の教室運営などについてインタビューした。

# 専門分野の研究を深めたい

**——まず、新教授に就任された率直な感想からお聞かせください。**

**和田◆** 金沢大学の小児科は、1924年（大正13）に開設以来、今年で95年を迎えた非常に伝統ある教室です。その伝統ある小児科を率いていく責任の重さを感じています。まだ就任したばかりで日が浅いですが、たくさんの方にお声がけをいただき、また数多くの励ましをいただきました。非常に光栄で身の引き締まる思いです。

**——新教授としてどんなところから優先的に取り組んでいこうとお考えですか？**

**和田◆** 大学病院は教育・研究・臨床が3本柱で、それぞれに取り組んでいく必要があります。私自身、まずは研究に力を入れていきたい。小児科には7つの研究グループがありますが、それぞれの専門分野の研究をさらに深めていきたいと考えています。

**——医局員の皆さんにはどのようなお話をされたのでしょうか？**

**和田◆** 金沢大学の小児科には、小児科学を通して未来ある子どもたちを支えて社会に貢献するという基本的な考え方があります。小児科学は出生前から成人移行期まで守備範囲が広く、全身のあらゆる病態に対応できる力が求められます。それと同時に、小児科学が支える色々な仕組み、例えば福祉や学校教育、家族や家庭環境など、子どもを支える社会の仕組みを通じて支えていくことも重要です。医局員一人ひとりを大切にしながら、自信を持って取り組んでいきたいという話をさせていただきました。

**——少子化もあって小児科の入局者が少ない時期がありました。現状はいかがでしょうか？**

**和田◆** 全体的には微増ですが、実感としては入局者をもっと増やしたいと思っています。入局者を増やしてほしいとの要望は関連病院の先生方からもたくさんいただいています。すべての声に応えたい気持ちですが、限られた中でしか対応できないのも現実です。少しでも入局者を増やして、大学も地域全体ももっとよくしていきたいと思っています。

Feature
特集：北陸の大学病院
University hospital

**金沢大学附属病院** 小児科

## 新教授に聞く

# 先天性免疫不全症の病態解明

**——魅力ある小児科をつくりあげていくためにも、専門分野の研究や最新の治療法などを積極的に進めたいところですね。**

**和田◆** おっしゃる通りです。私は前任の谷内江昭宏教授のもとで、免疫・アレルギー分野の研究を続けてきました。特に免疫の希少疾患や先天性免疫不全症に興味を持って研究に取り組んでいます。今この分野では、新しい疾患や原因遺伝子が次つぎと明らかになってきています。全国的に診断システムも確立されつつあって、金沢大学もそのメンバーに入っています。全国の仲間たちと症例研究を重ねながら、主に先天性免疫不全症や自己炎症性疾患の病態解明を進めているところです。

**——先天性免疫不全症とは、どのような特徴があるのでしょうか？**

**和田◆** 遺伝性の疾患で生まれつき免疫が弱いために感染症にかかりやすい、感染症が重症化しやすい、あるいは普段かからない病原体による感染症、これを日和見感染症といいますがこういった感染症にかかるのが特徴です。以前からあった病気ですが、むかしは気づかれないまま最悪の場合は亡くなるケースもあったようです。最近は遺伝子研究や遺伝子解析が進んできたこともあって、免疫の異常による疾患がよりクローズアップされてきているように感じます。体質的に発熱などの炎症症状が起こってくる自己炎症性疾患も、同じく遺伝性の疾患だと考えられています。

**——先天性免疫不全症はかなり珍しい病気なのでしょうか？**

**和田◆** 先天性免疫不全症は種類が多く300以上あるともいわれます。一つひとつの疾患が希少なことは間違いないですが、数年前の日本のデータでは、10万人に数人ぐらいの割合で発症すると考えられています。ただ実際には気づかれない症例がまだあって、1万人に一人、あるいはもっといるという専門家もいて、全体として比較的多い疾患になってきていると思います。年齢的には若年層が多いですが、最近は成人で見つかる人もいます。易感染性だけではなく、免疫の調節異常や自己免疫疾患に絡む病気も次つぎと出てきています。

**——実際の治療法や、治療で良くなるかどうかについてはいかがでしょうか？**

**和田◆** 治療法としては造血幹細胞移植が多く、成績も良くなっています。金沢大学はこれまで移植はしてこなかったのですが、小児科の中に血液・悪性腫瘍を専門に研究するグループがありますので、今後は血液グループとも連携して少しずつ増やしていきたいと考えています。

Feature
特集：北陸の大学病院
University hospital



## 小児科チーム全体で取り組む

**——免疫・アレルギー分野では、まだまだ解明されていない希少疾患は多いのですか？**

**和田◆** たくさんあります。遺伝子変異がわかっても、どうして疾患を起こすのか、メカニズムが解明されていないケースも多くあります。アレルギーの分野でも、いわゆる食物アレルギーと消化管アレルギーがあって、同じ食事によるアレルギーでも後者についてはどのように引き起こされるかがまだよくわかっていません。

**——通常の食物アレルギーと消化管アレルギーは、どのような違いがあるのでしょうか？**

**和田◆** 通常の食物アレルギーは食べてすぐに蕁麻疹が出たり、比較的仕組みはよく知られています。消化管アレルギーは食べてから2～3時間ぐらいして急に嘔吐したり、顔色が悪くなったりと症状が遅れて出てきます。なぜそうなるか、どのようにして引き起こされるかがまだよくわかっておらず、診断ツールも少ないのが現状です。どちらも原因食物がわかれば、それを食べなければ症状は抑えられます。消化管アレルギーについては、便の解析を以前から行っており、治る、または寛解の指標に有用と考えて研究を進めています。

**——研究としては今後どういうことに力を入れていこうとお考えですか？**

**和田◆** 希少疾患についてはこれまでの研究成果を病態解明や治療法、治療薬の開発につなげていけるように進めています。同時に、私たちが培った技術や解析法をもっと広い分野の小児疾患にも応用したいと考えています。免疫にかかわる小児の疾患は幅広くあって、各研究グループと連携しながら小児科チーム全体で取り組んでいきたいと思っています。

**志のある若い人たちとワクワク、ドキドキするような小児科を作っていきたい。**

## 院内、院外との連携が強み

**——各研究部門としては、免疫・アレルギー以外にどのようなグループがあるのですか？**

**和田◆** 全部で7つのグループがあります。免疫・アレルギー、血液・悪性腫瘍、腎臓・膠原病、神経・発達・遺伝、循環器、新生児、内分泌の分野です。この中で、例えば血液・悪性腫瘍グループでは2017年7月から先進医療として認められ、今後の保険適用をめざしている「高リスク群神経芽腫に対する131I-MIBG内照射併用大量化学療法」を開始しています。これは小児悪性腫瘍のひとつである神経芽腫の中で悪性度が高い一群は再発しやすく難治なため、新しい治療法が必要とされています。金沢大学の核医学教室と連携して行っているもので、神経芽腫の病変に集まる性質があるMIBG物質を使って治療に応用しています。日本のスタディグループにも入っていて、新たな治療法として期待されています。同様に、腎臓・膠原病グループでは自己免疫疾患や自己炎症性疾患などに関わる「サイトカイン」の解析を行っていますし、神経・発達・遺伝グループは、遺伝診療部ができて遺伝子検査が保険診療になったこともあって関心が高まっています。院内では先天性心疾患の手術ができる環境が整いつつあり、循環器グループの活躍の場が増えそうです。各研究グループが院内や院外との連携を深めながら、解析手法や病態解明を通じて新しい治療法につなげる研究を進めています。

**——小児科全体とすると、院内・院外の連携が非常に重要になっているわけですね？**

**和田◆** そういうことです。小児科はグループ間での連携はもちろんですが、院内の他の診療科とも密接かつ横断的な連携をしているのが特徴です。例えば、産婦人科や小児外科は最もお世話になっている診療科ですし、NICU（新生児集中治療室）などと密度の濃い連携をしながら新生児の命を支えています。院外においても県や市、行政との連携、学校とも関わっています。

**——魅力ある小児科医の育成についてどのようにお考えか、お聞かせください。**

**和田◆** 小児科は守備範囲が広い診療科です。広い裾野をもって患者さんと向き合えますし、その中で自分の専門性を磨き高めていける分野だと思います。大学病院には各専門の先生方がいて、広い専門分野を身につけた人とディスカッションしたり、臨床につながる研究もたくさんできる環境にあります。私は数多くの症例から学び、それを普遍化していきたいと思っています。志のある若い人たちとワクワク、ドキドキするような小児科を作っていきたいと思っています。


### Profile

**和田　泰三**（わだ・たいぞう）

金沢大学医薬保健研究域医学系小児科学　教授

金沢大学附属病院感染制御部　部長


［略歴］

1992年　金沢大学医学部卒業、同小児科入局
1997年　金沢大学大学院博士課程修了
1999年　米国国立衛生研究所（NIH）ヒトゲノム研究所留学
2002年　福井県済生会病院小児科 医長
2004年　国立病院機構医王病院小児科 医長
2005年　金沢大学附属病院小児科 助手
2008年　同　小児科 講師
2014年　同　感染制御部 部長、病院臨床教授
2019年　金沢大学小児科学 教授

小児科専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医、
インフェクションコントロールドクター、
日本臨床免疫学会免疫療法認定医